

わたしのおじいちゃん

小 五

わたしのおじいちゃんは、左足のひざから下がありません。わたしが生まれるずっと前に、車にはねられて左足を失ったそうです。

おじいちゃんは、月に二回、デイサービスに行っていて、楽しい一日をすごしています。そして、家に帰ると夕食の時にいつも、デイサービスのことを話してくれます。

「たっ球みたいな球を入れるゲームで、他の人ばかり入って、おれは入らないねー。」

などと言っています。

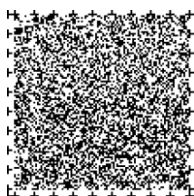
おじいちゃんは、歌がうまくて、ときどき家族で、カラオケの歌の練習をしています。歯をみがいている時も、鼻歌を歌っています。

デイサービスに行くと、働いている人に、

「Aさん、毎日来てくださいよ。」

と言われるみたいです。なぜかというとおじいちゃんがデイサービスに行く日は、いつもの倍くらいの利用者が来るそうです。おじいちゃんは、みんなの人気者なんだと思います。家でもわたしや妹たちにいつも楽しいことを言ってくれます。わたしはそんなおじいちゃんが大好きです。

おじいちゃんは、ときどき、かっっている犬の散歩をしないこ



とがあります。それは、足がいたいからです。おじいちゃんは足にぎそくをつけています。だから、足がはれてしまったたりすると歩けないのです。そんなおじいちゃんを見て、足のいたくならないぎそくを作ってあげたいと思います。

世の中には、体の不自由な人がたくさんいます。体の不自由な人たちが毎日楽しく、安全に暮らせるようにしたいです。おじいちゃんが笑顔でいてくれると、わたしはとてもうれしいです。体の不自由な人たちが笑顔でいられる社会になってほしいです。そのために、わたしは、だれに対しても差別をしない、やさしい人になりたいです。

